

貯槽の基礎及び据付け状態の検査

貯槽の名称								貯蔵ガスの種類					
形 式		円筒(縦、横)(地上、地下)球				内容積、容量		m ³ ・ℓ					
検 査 項 目			検 査 箇 所			検 査 結 果					判 定		
据付け状態		腐食の有無 変形の有無		アンカーボルト 脚 支 柱							適・否		
沈下量測定の周期			設置後5年以上経過した貯槽で各測定点の不同沈下率が過去3年間いずれも0.5%以下であるとき、沈下量測定は3年に1回としてよい。(製造細目告示)										
直近3回の 不同沈下率	検査年月	A-B		A-C		A-D		B-C		B-D		C-D	
		%		%		%		%		%		%	
		%		%		%		%		%		%	
		%		%		%		%		%		%	
次回沈下率測定予定年月		年 月											
不同沈下測定と不同沈下率算定の方法、合格判定		測定点をA、B、C、D、…………とし それぞれの測定値をa、b、c、d、…………(mm) A-B間の距離をL ₁ (mm)、A-C間の距離をL ₂ (mm)とする。 A-Bの不同沈下率： $ a-b /L_1 \times 100$ A-Cの不同沈下率： $ a-c /L_2 \times 100$ 不同沈下率0.5%以下の場合、合格(例示基準)											
沈下量測定値	測定点	A			B			C			D		
	測定値	今回	前回	比較	今回	前回	比較	今回	前回	比較	今回	前回	比較
不同沈下率(%)		A-B		A-C		A-D		B-C		B-D		C-D	
		%		%		%		%		%		%	
		適・否		適・否		適・否		適・否		適・否		適・否	
不同沈下測定方法略図													

※ 二重線内は今回沈下量測定を行わなかった場合、記入の必要はありません。

貯槽内部開放検査記録

(開放検査を行った場合のみ添付)

貯槽名称		ガスの種類			
型式		製造メーカー			
貯蔵能力	t	容積	m ³		
製造年月	年 月	据付年月	年 月		
設計圧力	MP a	耐圧試験圧力	MP a		
区分 項目	鏡板	胴板			
材質					
設計板厚	(腐れ代) Mm+ mm= mm	(腐れ代) mm+ mm= mm			
使用板厚	mm	mm			
検 査 結 果					
検査項目	内 容	検査月日	検査者資格	氏 名 印	判 定
漏えい検査	試験圧力 MP a				適・否
気密検査	試験圧力 MP a				適・否
耐圧検査	試験圧力 MP a				適・否
内面目視					適・否
磁粉探傷試験					適・否
浸透探傷試験					適・否
放射線検査					適・否
肉厚測定					適・否

※ 記録書は貯槽毎に作成すること。

※ 肉厚測定結果については、設置時及び前回測定時のデータと比較できるように作成すること。

貯槽内部開放検査記録

検査結果の記録

検査結果の記録の記入欄

符号	位置	欠陥の種類	欠陥の大きさ 深さ×長さmm	点数	補修の概要	再検査	判定
							適・否
							適・否
							適・否
							適・否
							適・否
							適・否

総合判定